

全苗連だより

Vol. 38 (9月号)

平成29年9月1日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

平成30年度林野庁予算概算要求が提出される(速報)

優良な種苗を低コストかつ安定的に供給する体制の構築を目的としている「優良種苗低コスト生産推進事業」は145.5%と大幅な伸び

林野庁は8月31日に、平成30年度予算概算要求を財務省へ提出しました。これから年末までの4ヵ月間にわたり予算折衝がスタートします。

平成30年度林野関係予算は、総額3,566億円(H29 予算 2,956 億円、以下()は H29 予算))で対前年度比120.7%となっています。予算の重点事項のテーマは「林業の成長産業化と森林資源の適切な管理」となっており、10の重点事項が示されています。

その最大の目玉が、「①林業成長産業化総合対策」となっており、総額は300億円。新たなスキームの下で、主伐・再造林の一貫作業の推進、川下との連携強化など、川上から川下までの取組を総合的に支援するとしています。そのメニューの中に「持続的的林業確立対策」があり、**再造林に必要なコンテナ苗生産基盤施設の整備等**を推進することとなっており、今年度に引き続き施設整備に対する支援の枠組みが位置づけられました。

また、重点事項の⑦に「花粉発生源対策推進事業」(総額115百万円(115 百万円))があり、①の「林業成長産業化総合対策」と併せて、主伐の増加が想定される内容となっており、苗木の需要量の増加が期待されます。

林野公共事業費は2,260 億円(1,900 億円)で対前年度比119%となっています。このうち**主伐後の再造林等を推進する森林整備事業費**は1,444(1,203)億円で対前年度比は120%となっています。林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を実現するために重点事項の⑨に位置づけられており、予算の獲得を大いに期待したいと思います。

次に、非公共事業に目を向けます。

「優良種苗低コスト生産推進事業(拡充)」は169(116)百万円と145.5%の伸び率です。種穂の確保、苗木の生産技術及び生産効率の向上、地域的な過不足が生じやすい需給のマッチングなど、各段階における課題を解決し、優良な苗木を低コストかつ安定的に供給するための体制を構築することを目的にしています。具体的には、優良種穂の確保と優良苗木の供給拡大の2項目があり、

【優良種穂の確保】

①指定採種源の拡大

新たに指定採種源を指定するために行う遺伝子調査に対する支援。

②エリートツリー等の原種増産技術の開発

採種園等を造成するための原種苗木の増産技術の開発と、その指導及び普及に対する支援。

③採種園等の造成・改良

認定特定増殖事業者等による都道府県域を超えた採種園等の造成・改良等モデル的な取組を支援。

④採種園の再活用等

利用されていない採種園等の再活用や人工造林地を穂木の採取源として活用するための条件整備を実施。

【優良苗木の供給拡大】

①新たな苗木生産技術の実証

国有林において、**生産期間の大幅な短縮が期待できる当年生苗の導入**に向けた植栽の実証を実施。

②苗木生産技術の向上等

日々進展の著しいコンテナ苗生産の生産・利用に関する技術研修、巡回指導、地域的な変動が生じやすい種苗の需給情報を共有する取組に対する支援。

を内容としています。

優良種苗の生産にとって、素性のはっきりとしている種穂を使うことは絶対条件です。今、植栽で求められている「特定母樹由来の品種」あるいは「少花粉・無花粉」の品種、抵抗性マツの品種の種穂が安定的に供給されなければなりません。【優良種穂の確保】の対策は大いに期待したいと思います。

また、【優良苗木の供給拡大】の「①新たな苗木生産技術の実証」は、当年生苗の活用可能性を確かめようとするものです。全苗連の先駆的生産者の中には、既に当年生苗の有効性を確認されている方もいます。国有林のフィールドにおいて実証試験がなされるとのことであり、データが集まり次第、植栽における苗木の仕様・基準に大きな動きが出ることも想定されます。

②の「苗木生産技術の向上等」は、コンテナ苗生産技術の日進月歩を踏まえて、最新最良の技術を普及させようとするものです。苗木総生産量に占めるコンテナ苗のシェアが2割に迫る中であって、全苗連としても大いに関心をもっているところです。

(お知らせ)

「コンテナ苗生産の新しい取り組みを考える」研修会の開催について

～ コンテナ直播き、直挿し並びにコンテナ苗の山地植栽後の検証を通じて、
コンテナ生産技術のスキルアップを図る ～

全苗連では、10月10日～11日の日程で、宮城県刈田郡蔵王町内において、地元宮城県農林種苗農業協同組合の協力のもと、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターの

研究者や地元行政機関の研究者、生産者等を交えて、「コンテナ苗生産の新しい取り組みを考える」研修会を開催してコンテナ苗づくりの技術研鑽を行うことを計画しています。

対象樹種はスギ、カラマツ、抵抗性クロマツ等で、具体的には、

- ・コンテナ直播きスギ、カラマツ、抵抗性クロマツ等
～ 直播き時期、種子消毒剤の違いが成長量、得苗率に及ぼす影響
- ・コンテナ直挿し少花粉スギ、カラマツ等
- ・コンテナ苗出荷時の養生の違いが成長量に及ぼす影響
- ・コンテナ苗植栽後の根系の発達状態等

等

[期日] 平成29年10月10日(火)13時 ～ 11日(水)11時30分

(10日は現地調査、11日は会議室にて研究開発成果等発表・質疑応答・意見交換)

[場所] 現地; 宮城県刈田郡蔵王町内、森林、苗畑

会議室; 宮城蔵王・遠刈田温泉さんさ亭会議室

(宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉東浦30 Tel0224-34-2211)

[発表予定者]

森林総合研究所林木育種センター 大平峰子

宮城県林業技術総合センター (調整中)

宮城県大河原地方振興事務所林業振興部 (調整中)

宮城県白石蔵王森林組合 太田清藏

[主催・共催]

全国山林種苗協同組合連合会

宮城県農林種苗農業協同組合

【申込等】

詳細が決まり次第、各都道府県苗組等には参加申込等の正式なご案内をお送りします。

なお、日程については確定していますので、参加をご希望される方は予定表への追加をされますようお願いいたします。

全苗連・苗組の行事予定

～H30.3 ①コンテナ苗生産未経験者を対象とした研修会 ②コンテナ苗生産新規参入者を対象とした研修会 ③コンテナ苗生産経験者を対象とした巡回指導等 実施者;該当道県苗組

9月 7日 平成 29 年度第 2 回全苗連理事会 (福岡市)

9月 7日 全苗連生産者の集い(福岡市 都久志(つくし)会館)

～8日

10月10日 全苗連研修会「コンテナ苗生産の新しい取り組みを考える」(宮城県蔵王町)

～11日

11 月～ 需給調整会議(各地区)



